

主な出来事 (2004年10～12月)

	三重・愛知	全国・海外
10月	●志摩郡5町（浜島、大王、志摩、阿児、磯部）が合併。「志摩市」誕生。〈10/1〉 ●名古屋市で全国初の地下鉄環状線となる地下鉄四号線の名古屋大学～新瑞橋が開通。第3セクター「あおなみ鉄道」も同日開業。〈10/6〉 ●2003年度の三重県内酒類消費量発表。総数量で11万14キロリットルと前年比▲0.2%。〈10/12〉 ●三重県が「人と自然にやさしいみえの安心食材表示制度」に松阪のヒラタケを認定。〈10/22〉 ●コナーズ ●「鈴鹿エコタウンプラン」を環境省・経済産業省が承認。〈10/29〉	●ダイエーが、民間主導での自主再建を断念、産業再生機構へ支援を要請。〈10/13〉 ●関西水俣病訴訟で、最高裁が国・熊本に行政責任を認める判決。〈10/15〉 ●総務省が人口推計5月分（確定値）発表。2004年5月1日の総人口は約12,756万人と前年比▲5万人。1950年の月次調査開始以来初の減少。〈10/18〉 ●台風22、23号が日本上陸。史上最多の上陸数に。 ●新潟県中越地震が発生。〈10/23〉 ●イラクで邦人の拉致、殺害事件発生。〈10/27〉
11月	●上野市、伊賀町、阿山町、島ヶ原村、大山田村、青山町が合併。「伊賀市」誕生。〈11/1〉 ●三重県の2002年度県内総生産発表。実質で前年比＋1.8%、製造業で大幅な増加。〈11/19〉 ●四日市の複合商業施設「アムスクエア」が一部リニューアルオープン。〈11/20〉 ●東名高速道路から愛知万博長久手会場へのアクセスとなる「名古屋瀬戸道路」が開通。〈11/27〉 ●四日市市長選・市議補選を実施。県内で初めて電子投票システムを導入。〈11/28〉	●2004年の貿易総額で、中国が日本を抜き世界3位になることが確実に。〈11/2〉 ●米大統領選で、ブッシュ氏が再選。〈11/3〉 ●パレスチナ自治政府のアラファト議長死去。後任にアッバス前首相を選出。〈11/11〉 ●内閣府が7-9月期GDP速報値発表。実質成長率は年率で＋0.3%と4-6月期の＋1.1%より伸び率が減速。景気は調整局面に。〈11/12〉 ●政府・与党が、三位一体改革の全体像を決定。地方への補助金約2兆8000億円削減、税源移譲約2兆4000億円が確定。〈11/26〉
12月	●三重県が「三重ブランド」を全国へ情報発信するツールとしてシール・ポスター・リーフレットを作成、認定事業者に配付。〈12/1〉 ●桑名市、多度町、長島町が合併。新「桑名市」誕生。〈12/6〉 ●伊勢湾岸自動車道で東名と東名阪を接続する、豊田JCT～豊田南ICが開通。岡崎～四日市で従来より約30分の短縮見込み。〈12/12〉 ●三重県の提唱で、県内金融機関が産学連携を仲介するネットワーク「みえ産学官プラス金融機関連携」が発足。〈12/16〉	●「牛肉トレーサビリティ法」の適用範囲拡大、生産履歴を小売店・飲食店でも開示。〈12/1〉 ●東京地検が、銀行法違反（検査忌避）容疑でUFJ銀行元副頭取らを逮捕。〈12/1〉 ●証券仲介業を金融機関に解禁。大手銀などで証券の店頭販売が開始。〈12/1〉 ●OECDが学習到達度調査発表。日本は各分野で平均得点が低下、学力格差も拡大。〈12/7〉 ●12月の日銀短観発表。業況判断指数・大企業製造業は、前回調査比▲4ポイントの＋22で、7期振りの悪化。〈12/15〉

コナーズ 「鈴鹿エコタウンプラン」を環境・経産省が承認

三重県と鈴鹿市が申請した「鈴鹿エコタウンプラン」が経済産業省・環境省の承認を受けました。同プランは、住民・企業・行政が一体となり4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）を推進する事業を展開し、資源循環型社会の実現を目指すものです。自動車工場の塗装工程から排出される汚泥、給食残さ、農業廃棄物等を混合して肥料を製造するという地域産業間の連携、地域資源の有効活用による新たな循環ビジネスの創出等、独創性・先駆性が認められるとして、両省の共同承認となりました。